

東海林力蔵関係資料を大学文書館で受贈

8月16日（木）、札幌農学校第19期生東海林力蔵のご息女福原 康氏がご令孫福原克郎氏と共に大学文書館に来館され、東海林力蔵に関する資料をご寄贈くださいました。

東海林力蔵（1878～1924年）は、小樽に生まれ、1892（明治25）年に札幌農学校予科に入学、1897年に本科に進学します。本科の同級である第19期生には有島武郎（文筆家）、半澤洵（応用菌学者）、星野勇三（園芸学者）、森本厚吉（新渡戸文化学園創立者）らがいました。東海林は農学校では農学甲科のゼミナールに所属し、作物学を専攻しました。1901年に卒業論文「小豆種子発芽作用ニ関スル研究」を提出し卒業、その後も研究生、講師、助教授

として農学校に残ります。1913～1915年にイギリス・ドイツ・アメリカに留学し、1918（大正7）年に北海道帝国大学教授に就任、翌年には農学博士の学位も取得します。1923年、新設の岐阜高等農林学校に初代校長として転出しますが、翌1924年11月6日に46歳の若さで逝去しました。

今回、ご寄贈いただいた資料は、書簡（封書、絵葉書）、写真、海外留学関係の書類、甲辞文など文箱1箱です。1910～1920年代の大学構内の風景や、国内外での同窓生のネットワークを示す、たいへん貴重な資料です。大学文書館において歴史的資料として利用できるよう、整理、保存をして参ります。

また、当日は、東海林力蔵が学生・教員として札幌農学校・北大に在籍した時代の資料を、大学文書館1階の会議室においてご覧いただきました。札幌農学校入学・在学に関する文書、夏季修学旅行報告、在学・在職期の写真、留学中に知人に宛てた葉書、教授時代の担当学科目などです。

今後も大学文書館では、東海林力蔵のように大学を支えた人物について、受贈いただいた資料等を活用し展示や閲覧利用等を通じて紹介して参りたいと思います。

（大学文書館）



札幌農学校第19期生（1901年頃）
左から、渡部甚作、東海林力蔵、半澤洵



大学構内風景の絵葉書（1914年）
左から、農芸化学教室、図書館



資料見学風景